1949年９月17日第三種郵便物認可　毎月10日発行　第646号（通巻1150号）　定価１部40円

創立1880年
東京YMCA
2007 5月号
発行所　東京キリスト教青年会　発行人　新井廣和
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命
東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

2007年度 運営方針・事業計画
公益性を軸に多彩な展開目指す
青少年育成　障がい児・者活動　子育て支援

2007年度東京ＹＭＣＡ運営方針・事業計画・重点事項が示されている。
新年度にあたり、2期目を迎えた新井廣和総主事と新しく副総主事を担当する本多真也主事、堀口廣司主事が、今年度の東京ＹＭＣＡ運営方針について語った。聞き手は会員であり、広報委員の村杉克己氏。

市民が支え合う地域社会創造へ
座談会

村杉　機関紙「東京ＹＭＣＡ４月号」には、2007年度東京ＹＭＣＡ運営方針・事業計画・重点事項が示されています。

今回は、2期目を迎えました新井廣和総主事と、新たに任命されました本田真也・堀口廣司両副総主事を交えてお話をお聞きします。

さて、2003年の神田会館閉鎖より3年半が過ぎ、2007年度を迎えましたが如何でしょうか。

新井　神田会館の閉鎖は、会員はじめ東京ＹＭＣＡに連なる方々に多大な影響がありました。当時は混乱もあり、ある側面ではトップダウンにて対応し、各事業の情報が組織全体に伝わるように意を尽くしました。

職員も状況を良く理解し、自制し切り詰めるなどして乗り切ってきたと思います。

2006年度につきましては財政的にはバランスの取れる状況となり、事業を安定的に進める基盤ができつつあると思います。望むことはこの「達成感」を会員、職員とも共有し、前進したいと強く思います。

改めて振り返りますとこの3年間、「東京ＹＭＣＡミッション」を見つめ直すときであったと思います。会員のご理解とお支えに深く感謝いたします。

正面右から会員・村杉克己氏、本田真也副総主事

堀口　回復途上でありますが、会員、職員共々皆で乗り越えてきたという実感があります。

神田会館撤収の時の落胆した思いは忘れられませんが、財政立て直しの働きは、前を向いて、希望をもって歩むことの大切さを知りました。

本田　会員の底力を感じます。近年にとっては未曾有の困難な状況であったわけですが、1000名近い会員が東京ＹＭＣＡを思うが故に、叱咤激励と言いますか、厳しくまた力強く支えていただいたことが東京ＹＭＣＡの組織も職員も前へ歩みを進めることを可能にしてくれたのではないでしょうか。

村杉　重点項目の最初に「ＹＭＣＡの公益性を確認する」とあります。私は、東京ＹＭＣＡは日本社会で先駆的に青少年育成を社会教育の面で担ってきたと思っていますし、それを今日でも見ていますので、当たり前だと思っていました。

新井　確かに、東京ＹＭＣＡは青少年への小集団活動、野外教育活動、英語教育、そして、バスケットボール、バレーボールの紹介など多くの先駆的な働きを担ってきましたが、その歴史の延長線上にある今の働きをきちんと外側にも見せ、認知してもらう必要があります。

今回、施設整備を図る山中湖センターは、障がい児・者のキャンプ、家族キャンプ、国際キャンプ、そして、ユースリーダートレーニングなど多くの青少年を育んできています。全人的な成長の場となっているのです。地味ではありますが、その青少年の成長に関わっていること、その公益性を示したいですね。

本田　110年ぶりと言われる公益法人制度改革が目前に迫っています。改革の中では、公益性のある財団法人を「公益財団法人」として認定する仕組みがあります。法案では23の公益目的事業が示されています。東京ＹＭＣＡの働きは、「青少年健全育成、障がい児・者への支援」「教育・スポーツを通しての健康増進」「国際相互理解・国際協力」と言った事業分野に該当すると思います。

堀口　財団法人として社会体育・保育専門学校、国際ホテル専門学校を運営していますが、このような職業教育のルーツは東京ＹＭＣＡが1890年に始めた英語夜学校です。勤労青年への学びの機会であったのです。現在、両校合わせて640名が学んでいます。

私たちの専門学校は時代の要請に応えつつ、社会に貢献できる人格形成を行い、自己実現のための職業を獲得する学びの場である教育事業です。公益性は自明のことです。

村杉　重点項目の2番目に「市民の社会実現に関わる」とあります。かつて、市民社会の形成と盛んに言われたことがありました。

これはどのようなことでしょうか。

新井　高度成長期の時期、旧来の地域社会が変容し、「個の孤立」に対して、「個の自立」やコミュニティの場の形成が言われました。コミュニティセンターができ、市民講座なども行われました。

その後、NPO法制定を経て、市民グループが組織的に位置づけられ、ネットワークを形成し、地域の課題等に向き合うようになったと思います。

正面右から新井廣和総主事、堀口廣司副総主事

本田　ＹＭＣＡの「Ａ」はアソシエーションですが、血縁・地縁から離れて、共通の目的達成のために自由意志に基づいて集うグループを指します。元東京女子大学学長の故隅谷三喜男氏は、ＹＭＣＡが日本で最初にアソシエーションの概念を具現化したと述べていたことを思い出します。

東京ＹＭＣＡのミッション、そのものの中に、市民社会への関わりが求められていると思います。

現在さらに複雑な社会状況により、弱い立場に置かれた人々が増えています。そういった弱い立場の方への支援も含めた市民が望む地域社会を作り上げる必要性を痛感しています。

そのようなネットワークにＹＭＣＡも参画していく必要があるのではないでしょうか。

堀口　ＹＭＣＡがコミュニティーセンター的役割を担うといった側面もあり、もう一歩進んで市民とその課題に出会っていく、そのネットワークに加わっていくということですね。

場を用意して待っている、窓口を開いて待っているのではなく、ＹＭＣＡが出て行ってコミュニティの人々と連携することなのでしょうか。

新井　今あるプログラムも地域と密接に繋がっているわけで、まずは地域を強く意識することでしょうか。そして、さらにその先にある課題に出会う。

青少年を巡る課題は多くあります。豊かになったとは言え、格差社会と言われ

（2面に続く）

フレンドシップファンド
「子どもたちの友―隣り人になろう」
プログラムに参加したくても、できない子どもたちのために、ご支援をお願いします。
ご寄付、募金は東京ＹＭＣＡの各センター窓口、または銀行振込で受け付けています。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
三菱東京ＵＦＪ銀行　神田支店
（普）４５５６９０
（財）東京キリスト教青年会
＊お名前の前に「フレンド」とご記入下さい。

＝公　示＝
第５回会員大会
日　時：2007年５月２６日（土）
13：30～17：00
場　所：東京ＹＭＣＡ
東陽町センター
■お問合せ：会員部
ＴＥＬ　03-3615-5568

赤▽三角
「日本人は英語が得意ではないのか」の問いは、ＹＭＣＡで語学・国際事業を担当してきた私にとって、常に関心事であった。「国際化」は現在良い意味で使用されているが、元々は帝国主義時代に列強が植民地支配の国々に自国の言葉・文化を強要し、同化させる意味での「国際化」であった。▼明治以後日本は開国し、英語教育も盛んになった。ＹＭＣＡも歴史的に大きな役割を果たした。内村鑑三、新渡戸稲造をはじめ、明治の日本人は英語が上手であった。Ｗ・Ｓ・クラークが校長を務めた初期の札幌農学校では、授業はすべて英語で進められ、英語力強化が、国際社会の知識を学ぶ手段であった。▼ところが、日清・日露戦争に勝利し日本が短期間で強国になると、英語はもはや重要課題ではなく、日本語・日本文化を強調する風土が強まる。この頃の政府要人の多くは皆、幕末の志士達であり、幕末攘夷の思想が再生されたのではなかろうか。▼英語教育も、外国文化を学ぶ手段から学校教科へと変化し、現代の日本の主な英語教育観となっている。英語をどう教えるかは、その国と国際社会との関係に直結している。ナショナリズムの話題が聞こえる昨今、人と人が国・民族・人種を超えて共に生きる社会をつくる本来の使命を忘れず、コミュニケーションの基として、英語教育を大切にしていきたい。
（本部事務局　松本数実）